

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成28年10月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は7のまま変化なし。「減少した」業種は5から4に減少。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は6から9に増加。「減少した」業種は12から8に減少。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は1から2に増加。「悪化した」業種は10のまま変化なし。

前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は7から5に減少。「減少した」業種は5から8に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は6から4に減少。「減少した」業種は12から14に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は1から5に増加。「悪化した」業種は10から15に増加。

製造業

酒類製造

【県内全域】

9月売上は前月比相対に伸長したものの、前年比相当減少した。価格帯が比較的高い特定銘柄酒は引き続き好調も普通酒他不調のため前年比微減の傾向変わらず。

製材

【県内全域】

景況の変化は、民間工事減のためか芳しくない。業界動向は、高齢化もあり廃業が出てきている。

製材

【木更津】

10月南用材一隻入港。ロシア船一隻入港。米材船入港なし。入港はあったが、在庫は減少傾向。

印刷

【県内全域】

業界の変化については以下の通り。1、先行きの暗さは変わらな。2、紙の出荷量が減っている。3、通販印刷のCMが増えた。

電気鍍金

【県内全域】

昨年よりは良いが、これは昨年が特に悪かった。

鉄工

【千葉】

当組合が半期毎に実施している景気動向によると、「景況感」の改善は見られず、「設備操業度」の低下傾向が続くなど、マクロ経済の動きと同様、低調な動向を伺

わせる調査結果となっている。

機械部品製造

【野田】

景況の変化について、業績が前月より好転している業界と依然として良くない業界がある。好転している業界も短期的な状況と見ている。

機械部品製造

【流山】

先月とほぼ同じような状況で、景況の不透明感が濃くなっているように思える。

機械部品製造

【柏】

個別案件を除き、全体的に停滞状況。

金属製品製造

【船橋】

主要取引先の発注が回復し、売上が増加してきた。

採石

【県内全域】

10月期は9月に引き続き出荷が殆どなく最悪である。豊洲市場の盛土計画が突然うやむやになり期待が崩れ、我々の業界にとって痛手は大きい。横浜港管内での事業も想定されるが、今度の件は多方面に悪影響を及ぼすのではないかと危惧している。

土砂採取

【県内全域】

売上高については、前年同月比では減少しているものの、前月比では増加との報告もあるが、全体

的には前年同月比、前月比とも不変で大きな動きはなく、オリンピックに対しての特需はいまだに実感できず不透明である。

非製造業

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

【事務機、事務用品卸】一部の事務用品・消耗品の卸価格が対前年で僅かながら上昇しており、相対的な売上を上昇させている。【紙製品卸】紙おむつの特需による出荷量減少。

【建築材料卸売】 【県内全域】

景況の変化について、前年比90と低迷続く（前月よりは増加しているが）。回復の目途立たない比較的良かった東京隣接エリアも新規物件乏しく、千葉県全域で需要低迷している。業界の動きについて、大型倉庫需要も終焉間近。住宅戸建、マンションとも減少。補修工事のみ再び冬の時代到来に業界は縮こまっている。

【自動車解体】 【県内全域】

昨年秋口よりスクラップ価格が暴落し、景況が急速に悪化した状況が現在も続いている。業界動向は、零細業者ではほとんど業務停止状態の会社が出ている。

【乾物卸売】 【県内全域】

景況の変化は変わらず低調。販売不振により、倒産・廃業の情報が4件ほどあった。

【卸売】 【茂原】

長雨や台風の影響で魚介類野菜類の高値が続き、一般消費者も芳しくありません。それでも大型店では冷凍物やレトルト食品の販売で間に合わせているようです。

【小売】 【柏】

そごう柏店閉店の影響はあまりないように感じる。

【電気機器小売】 【県内全域】

景況の変化について、家電販売は最低域を出ない、厳しさが身にしみる。大メーカーが改革と称して、定価、卸、流通、その他改革を進めてきたが、何一つ我々の経営の足しになっていない。

【青果小売】 【千葉市】

先月以上に台風及び日照不足の影響で入荷不足となり近年にない高値となっている。売上は立っているが、実際に動いている物量は昨年の半分程度である。したがって、利益も取れていない。資金繰りが深刻となっている。

【中古車仕入・販売】 【県内全域】

中古車オークション会場に出品

される車の台数が減少している。10～11月頃は、仕入れに苦労することが予想される。

【小売】 【東金】

景況の変化について、ファッショ関連品は、前半は暖かく減少傾向。後半は寒くなり動きがした。日用品関連は回復傾向になってきている。食品関係は、野菜類が高値の為、他の職員にも影響が出ている。飲食関係は、外食機会が減ってきている傾向にある。

【小売】 【野田】

節約傾向が増しており、客単価が低下している。競合店との価格競争も激しく、売上が悪化している。

【小売・サービス】 【柏】

景況の変化について、9月は残暑、天候不順等厳しく商店街も活気無く10月に期待したが一向に良くなる気配が感じられない。購買意欲の欠如が一番影響している。2キロ圏内にまた食品スーパーやオコー賀10月下旬に開店した事により当地区はスーパーの超激戦地と成った。

【遊覧船業】 【鴨川】

景況の変化について、10月は欠航が3日と前年に比べ2日多く、

また、個人・団体客共に入込数が前年に比べ大幅に減少し（合わせて約1,700人の減少）、売上・収益共に大幅な減少となった。

【土木・建築サービス】 【県内全域】

景況の変化について、9月の日銀短観で「もたつく景気が長引いている」とされたが、有効求人倍率や完全失業率等の雇用関係の数は改善を示している（非正規が中心だが）ものの、9月の台風や残暑の影響、円高の進行や新興国景況の減速などから、消費者の節約志向の高まりやインバウンド景気にも陰り（訪日客は増加し、初めて年間2,000万人を突破したものの）が見られ、消費者物価の下落も続いている。

【貨物運送】 【野田】

景況の変化について、常磐高速道路流山インター出口に大型物流センター建設中。

【輸出入】 【県内全域】

10月の売上は前月比、前年同月比は不変で横ばいであった。